

## 2020.12.19 FCT 第2回オンラインセミナー報告

### モニターグループ報告② FCT 事務所グループ

FCT 事務所グループ報告

報告：上村 陽子

#### 0. FCT 事務所グループ概要

##### ・モニターした番組

NHK「ニュース7」「ニュースウオッチ9」、テレビ朝日「報道ステーション」、フジテレビ「ライブニュース」計4番組

「朝日新聞」「産経新聞」計2紙

##### ・モニターメンバー

(あいうえお順) 上村陽子、小川眞理絵、佐々木はるひ、新開清子、西浦完次、西村壽子 計6人

##### ・モニター方法

コロナ禍のため、オンライン会議8回で対応

#### 1. モニターしたメディア

①テレビ「報道ステーション」(2020年9月29日)

②新聞「朝日新聞」(2020年9月29日)

#### 2. コンテンツ分析フォームのための質問

##### 2-1. テレビ「報道ステーション」

モニター日のニュース項目はどのようなものか。

1. 「NTTによるドコモ完全子会社化」 2. 「新型コロナ 東京で新たに212人 世界の死者数は100万人超え」 3. 「コロナの影響で3年ぶり基準地価下落」 4. 「中小企業再編カギを握るのは」 5. 「来月1日から酒税も変更」 6. 「空自救難ヘリが高校に緊急着陸」 7. 「菅総理 プーチン大統領と電話会談」 8. 「日産ゴーン事件 ケリー被告公判」 9. 「これからサラリーマン川柳」

その日の中心になっていたニュースはどのようなものか。

「NTTによるドコモ完全子会社化」「コロナの影響で3年ぶり基準地価下落」  
いつもと異なる出来事などがあったか。

なし

##### 2-2. 新聞「朝日新聞」(1、2、3、4面。13面は関連記事のみ。)

モニター日のニュース項目はどのようなものか。

- ・ 1面 「暮らし変わる秋 ビール系増減税 笑うのは」 「中国にのみ込まれる 香港デモ 撃たれた若者の懸念」 → 「強まる香港弾圧 若者の悲観」 (13面) 「大阪都構想 市民世論調査 賛成 42% 反対 37%」 「もう冬支度 富士山初冠雪」
- ・ 2面 「教員わいせつ行為 難しい対策」
- ・ 3面 「TikTok 禁止を差し止め」 「感染者集計『ハーシス』への入力」 「レオパレス 債務超過 118 億円」 「トランプ氏 所得税 10 年ゼロ」
- ・ 4面 「菅政権 残すか減らすか 内閣官房『分室』安倍政権で 40 に膨張」 「中曽根氏葬儀に政府 9600 万円 『コロナで費用増』 国民感覚と違う」 「細田派求心力に課題」 「自殺増加対策『窓口活用を』」 「年末調整 申告書を自動で」 「コロナ禍の初詣 あり方を検討へ」

その日の中心になっていたニュースはどのようなものか。

「暮らし変わる秋 ビール系増減税 笑うのは」 (1面) 「教員わいせつ行為 難しい対策」 (2面) 「TikTok 禁止を差し止め」 (3面) 「中国にのみ込まれる 香港デモ 撃たれた若者の懸念」 (1面) → 「強まる香港弾圧 若者の悲観」 (関連 13面)

いつもと異なる出来事などがあつたか。

なし

### 3. 質的分析のケース・スタディのための質問 (より詳細な分析が必要なニュース項目)

#### ① テレビ「報道ステーション」

・ 「コロナの影響で 3 年ぶり基準地価下落」: 地価が逆に上昇している川口市の現状を住民に取材する。戸建て住宅の居間で取材を受けているのは男性。女性の姿は映らない。これは「住宅の買い手」としての男性像のように受け止められる。

→ 同様のことは「ニュース 7」でも看取できた。「商業地 地価下落」では妻は玄関を開けるが部屋に入るとコメントを述べるのは夫のみ。広告などにおいては家庭という空間は家事や育児と結びつけられ主に女性が登場人物なることが多いが、家それ自体をめぐる文脈 (家の所有、購入など) では男性の存在ばかりが強調される。

・ 「来月 1 日から酒税も変更」: 買い物客のインタビュー対象者に女性と男性が選ばれる。女性は「家計をやりくりしている主婦」のイメージが付与されていると思われる。男性は高齢者を対象としたのは「年金取得者」としての意見を拾いたいからなのだろうか。

・ 「天気予報」: 下村彩里アナウンサーが天気予報士とは別に登場するが、この「お天気おねえさん」の役割は? 日本特有なのか?

→ ステレオタイプの表現

・ 「NTT がドコモを完全子会社化」: インタビュー対象者にドコモを解約した男性の社員が登場する。スマホ利用者にジェンダー差は大きくないと思う (かつては男性の利用者が多かったようだ) が、男性が選ばれている。

## → ジェンダー・バランスを欠いている/ジェンダーの視点が欠けているもの

### ②新聞「朝日新聞」

#### ・「教員わいせつ行為 難しい対策」

： 被害者が女性の場合のみ取り上げられているので、男性の場合も取材していれば、より多様な内容の記事になるのではないかと思われる。被害者の保護者も母親のみの登場だが、父親はどう考えているのだろうか。弁護士、団体代表など女性は6人だが、男性は加害者の逮捕された教員、文科相のみである。「加害者側の男性」「被害者側の女性」というステレオタイプの構成が感じられる。(ただし、実際に被害者の多くは女性であろうし、男性被害者の声はより不可視化されているのが現状でもあろう。)

#### → ステレオタイプの表現

： この記事で取り上げられている教員によるわいせつな行為や女性に対する性暴力は現実に起きている深刻な問題でありながらも、同日の他のメディアではまったく取り上げられていない。そのなかで朝日新聞は1/2面を超える紙面を使用し、記事にしたことは評価できる。女性記者2人、男性記者1人の構成であることも他の記事とは扱いが異なる。ただし、タイトルにある「わいせつ」という表現に疑問を感じるという意見もあった。記事には「わいせつ行為」は散見できるが、「性暴力」という言葉は「全国学校ハラスメント被害者連絡会」共同代表者の発言内一箇所にはしか見られない。同じ朝日新聞でも11月21日(土)「Think Gender ジェンダーを考える」のシリーズでは、性暴力被害に「衣服の上から体を触られた」ことも含まれている。「わいせつ」というあいまいな表現がされている限り、社会に「性暴力」と捉える考え方が根づかないのではないだろうか。

#### → ジェンダーに対する意識 (ジェンダーの不平等に着目するニュース項目)

### 4. 全体としてのジェンダー・バランス

・コーディングをしてみると、男性の登場人物が圧倒的に多いことがわかる。特に、役職のある人、専門家、家庭内でも経済的地位が高いと思われる人には男性が登場し、経済的弱者や母親、主婦のイメージは女性に付与される傾向がある。あるいは、女性は無名化される場合もあった。

→女性の無名化について「ニュース9」でも指摘できる。コロナ専門病院の医師は役職や名前が表示されているが、女性の看護師は数名はそれがなく、さらに母親としての語りも強調されている。

・テレビと新聞を比べてみると、テレビのキャスターは男女の人数、ニュースを読む順番や分量においてバランスをとろうとしているように見えたが、新聞においては記者は圧倒的に男性中心である。また、新聞の方が登場する人物も男性が多い。

## 5. コーディングについて

- ・「2.テーマ」で「著名人、アート、メディア、スポーツ」で53の最後に「女性・男性のメディア表現」とあるが、これは「ジェンダーと関連」の部分に入らないのだろうか。
- ・被害者は詳細に記入していくが、加害者についてのコーディングは「25犯罪者」としてのみの記入だがそれで妥当だろうか。

## 6. 感想

「客観的事実」というものを報じているニュースや記事がいかに偏りのあるものなのか、についてその背景をめぐってさらに議論を深めることができるのではないか。例えば、なぜそのニュース、記事が取り上げられているのか、何が取り上げられていないのか、なぜその女性／男性に取材するのか、その理由は内容によるものなのか、作り手によるものなのか、その作り手は誰なのか、など。メディアの背景にある労働とジェンダーの関係などさまざまな問題とっしょに話し合うことができるのではないか。